

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立 七山小中学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・LMを用いたことで、子どもたちが展望を持ち学習に取り組むことができた。今後も継続していきたい。また、小学校中学校で共通して、グループ学習を取り入れた授業を仕組むことで、自己の考えや思いを表現できると感じる児童生徒は増えた。今後はすべての児童生徒が自己表現できる力を育成していくような手立てを講じていきたい。 ・生徒指導面においては、より一層、児童生徒との関わりを大切にしていける必要がある。成長段階を考慮しつつ、児童生徒の良さを認め、的確に称賛していく姿勢を持ち続けることで、自己肯定感を高めていきたい。 ・より一層、小中学校の利点を活かすべく、小学生に中学生のリーダーシップに目を向けさせ、小学高学年の責任感の育成を図り、学校全体の活性化を目指したい。 ・総合的な学習の時間をはじめ、各場面で地域教材や外部講師を取り入れた学習活動を仕組んだことで、郷土愛を育むことができた。今後は、教師が系統性を重視して学習のねらいを見定め、データストックを活用してより良い活動を仕組んでいきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>「感謝の心を持ち、自立に向かう子どもの育成」 ～ お互いを「思いやり」、一人一人が「輝き」、小中一貫教育を通して自ら学び・考える力を伸ばし、自己実現を目指す ～</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。 ② 互いの良さを見だし、認め合う教師の目と子供の目の育成（出番・役割・承認） ③ 児童生徒の自主的・自立的活動の活性化 ④ 特別支援教育の充実
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権について真剣に考えることができる児童生徒90%以上 ○他者の多様な考え方を聞き、認めることができる児童生徒90%以上	・人権教室の実施。 ・発達段階や学級の特性に適切した人権感覚を磨く。 ・気づき、考え、議論し、認める気持ちを高めよう道徳授業の実践。	A	・人権について真剣に考えることができる児童生徒は95%となった。 ・他者の多様な考え方を聞き、認めることができる児童生徒は96%であった。 ・共に目標値を超えることができた。	A	・七山は優しい子どもが多く、心の問題に対して素直に向き合うことができるように思う。今後も続けて取り組んでほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの早期発見、早期対応100%	・月に1回程度アンケートを実施し、児童生徒理解に努める。 ・チームで早期対応を行い、連携を図る。	B	・早期発見、早期対応は、教師は100%であったものの、児童生徒は90%、保護者については82%という結果であった。 ・学校内では、アンケートとそれを受けた面談等、いじめに対して積極的な早期対策を実践しているが、そのことが伝わりにくいのではないかと。	B	・学校側としては100%だと思うが、子どもも成長していく中で先生に話にくいと感じているのではないかと。だからこそ、いじめの発見に関しては先生方の「目」に頼るところが大きいと思う。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・児童生徒の自己肯定感を高める。 ・互いを認め合い、協力し合う集団作りに努める。 ・キャリアパスポートの活用 ・感謝の気持ちを伝えたり、将来へ向かう志をもたせたりする。 ・「ほめるからはじめる」ことを意識した声かけ。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒は93%、「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒87%でほぼ目標値を達成できている。	A	・キャリアパスポートという取り組みはとてもいいと思う。自分の成長の記録をもって学年が上がっていくのは意義がある。 ・家庭内でも、夢について話すこともあり、このような結果になっているのだろう。
●健康・体づくり	○異年齢集団の活動の充実	○小学校から中学校まで一緒に生活する学校でよかったと思う児童生徒、保護者、学校職員、地域関係者 各90%以上	・児童生徒会本部と専門委員会と連携して自治活動を行い、校内の行事を充実させる。 ・歓迎遠足、体育大会、ボランティア活動等を通して、異年齢集団での活動を充実させる。	A	・小学校から中学校まで一緒に生活する学校でよかったと思う児童生徒96%、保護者91%、学校職員93%と高評価である。 ・唐津市内で小中学校の統廃合により小中併設校となる学校の手本となるべく、今後も教育課程の編成に努め、実践していく。	A	・地域としても、体育大会等の学校行事が小中学校を同時に見ることができると嬉しい。 ・放課後遊んでいるときも、小学生と中学生が仲良くしている姿が微笑ましい。
	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒90%以上	・休み時間の運動場、体育館利用の割り当てをし、施設を有効活用させる。 ・各学年や体育館に専門ボールを設置し、運動しやすい環境を整える。	A	・運動やスポーツに積極的に取り組む児童生徒は87%、健康に良い食事をしている児童生徒は89%と、おおむね達成できた。小規模校のメリットを生かし、体育館の昼休み開放も要因と考えられるが、地域のスポーツ協会の伝統的取組の影響によることは大きい。 ・健康に良い食事をしている割合は89%、健康が大切であると答える児童生徒は99%にも上る。毎日の児童生徒会による給食の放送も一因と考える。一方で、健康を意識した行動を身にかけているかは不明瞭である。	A	・休み時間に寸暇を惜しんで外に出て遊ぶ様子を見ている。小規模校で場所も十分確保できていることは大きい。 ・給食のメニューも工夫しており、とてもよくなっているように思う。特別なメニューもあり、子どもたちも楽しんで食事ができている。
	②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・食事に対する意識と摂取栄養素に対する知識を高めさせ、好き嫌いをなく、マナーを守った食事ができるようにする。 ・発達段階に応じて、生涯健康な生活を送ることができるような基本的な生活習慣を身に付けさせる。	C	・歯科の治療勧告書配付人数は89名であるが、回収数は13名で、14.6%しかなかった。地域から歯科がなくなったことが大きな要因だと考えられるが、保護者の意識改革は必要であろう。	C	・治療はしているが、学校に治療勧告書を提出できていない場合も多くあるのではないかと。配付や回収については、はなまる連絡帳で保護者に知らせるなど実施して、徹底したほうが良い。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○子供の健康に対する保護者の意識の向上	○むし歯の治療率60%以上を目指す。	・治療勧告書の回収方法を工夫する。 ・連絡アプリの活用	B	・時間外に業務時間については、管理職を除き遵守している。年度初めや繁忙期については、月45時間を超える職員が多いが、軽重を付け負担のなきよう職務にあっている。 ・長期休業中でも出張や研修はあり、学校現場において年次休暇14日取得は難しい。	B	・長期休業中の研修の入れ方を工夫し、休暇を取りやすい環境を整備してはどうか。
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・管理職を含め、定時退勤日を意識した業務遂行を目指す。 ・特に長期休業中において、不必要に研修等を設定しないことを周知徹底するとともに、短時間でも年休の取得を促す。	A	・「ねらいを再認識し、取捨選択も法的に活動を仕組む教師が増えた。(93%)これにより業務改善・時数確保にもつながってきた。	A	・外部指導者(団体)に対しても、早めに何時間計画なのかを伝えておくこと、準備も適切にできるので、地域としてお願いしたい。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する職員の理解を深め、特別支援教育の視点を取り入れた指導・支援	○特別支援教育に関する理解が深まったと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・子ども支援会議を中心とした、全職員での児童生徒の情報共有と一貫した関わり	B	・特別支援教育に関する理解が深まったと答えた教職員は86%であった。高い数値ではあるが、研修が未実施となってしまう専門的知識を高める機会が減ってしまった。	B	・先生によって理解の度合いに差があるように感じている。子どもたち一人一人によって対応の方法が違うだろうが、引き続き頑張ってもらいたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○良さを見だし、認め合う教師の目の育成	○「ほめるから はじめる」ことを主眼においた指導の充実		
○危機管理(安全教育的推進)	○交通事故における危険予測・危険回避能力の育成	○独自アンケートによる調査で「通学及び日常生活において交通ルール(特に自転車等)を遵守する意識が高まった」と答える児童生徒90%以上	・交通安全教室を実施し、交通事故の危険性並びに交通ルールの遵守及び昨年度改定した交通ルール(自転車等)について周知する。 ・自転車点検を実施し、保護者と連携して安全教育を促す。	B	・交通安全に気を付けて生活できている児童生徒の割合は、85%であった。地域から道路の横断や、自転車の乗り方で情報が入ることもあったが、自己理解ができている数値であると思われる。 ・家庭と情報を共有し、改善に向けて協力が必要である。	C	・坂道を猛スピードで下っている自転車や、二人乗りも見かける。ヘルメットも着用していない場合が多く、今後も指導を続けてほしい。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上について、LMの活用やグループ活動を取り入れた授業実践はできており、自己の考えを伝える力は向上しているように思う。しかし、各種学力検査の結果では、県の平均値を下回る結果となっている。ICTの活用も見据えながら、基礎基本のスキル向上を目指したい。 ・児童生徒とのかかわりをより一層大切に。児童生徒の良さを認め、適時的確に賞賛する教師のスキルを高めることで、自己肯定感を高めていきたい。また、「見えないカリキュラム」とされる教師が手本となり、あらゆる学校生活の場面で人権感覚を高めていきたい。 ・特別支援教育に関して、外部講師を招聘した研修を行い教師の理解を深めるとともに、指導力向上を目指したい。 ・学校だけでは解決できない課題(児童生徒の健康に関すること・交通安全にすること)を地域と連携して向上させていきたい。
----------------	--